

三保

スローガン

豊かな自然に、子どもの声が響き合い、
共に支え合う三保の地域づくり

実践目標①食を通して子どもと親と地域のつながりをつくっていこう

実践目標②地域資源を通して障がい者・子ども・高齢者と交流しよう

実践目標③防災を通して地域の備えをすすめよう



三保地区は、昔から続く伝統行事や各種遺跡が数多く残っており、歴史や文化を次世代に継承していこうという活動が活発な地区です。

また、三保交流センターや三保文化センターなどを中心に、地域の交流行事が盛んに行われている地域でもあります。

3世代同居世帯も多く、また、三保小学校と地域にある高齢者施設や障がい者施設との交流行事も盛んなことから、多様な人との交流も積極的に進められています。

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2021 (R3) 年
人口	2,814	2,763	2,585
世帯数	1,208	1,251	1,241
高齢化率	26.8%	31.8%	36.0%
一人暮らし高齢者	204	254	291
高齢者のみの世帯		632	666
0~18 歳人口	455	455	398

※各年ともに9月30日時点のもの(中津市の統計データより)

実践目標と設定理由・効果

実践目標①

食を通して子どもと親と地域のつながりをつくっていこう

「地域に知らない人がいる」「子ども会等以前のような交流はないので親同士の交流も少ない」「コロナ禍で世代間交流の機会がなくなっている」など、地域の中での接点が少なくなっている意見が多くありました。

子どもが中心になると親も一緒に参加できる機会となることから、その機会が地域で公認され、さらに子ども目線での取り組みを進めていくことで、新しい人と顔の見える関係づくりにつながります。

実践目標②

地域資源を通して障がい者・子ども・高齢者と交流しよう

障がい・高齢・子どもそれぞれがなかなか接する機会が少ない中、三保地区では、コロナ禍以前に継続して取り組まれていた、三保小学校・三保の杜作業所・小規模多機能水車との交流事業は子どもと障がいのある人と高齢者の人が交流できる機会でした。この交流事業は、楽しく和気あいあいとしており、地域のためにもなることから、今後も続けていくことが大切です。

今ある交流を発展させていくことで、地域全体を巻き込んだ相互理解につながります。

実践目標③

防災を通して地域の備えをすすめよう

地域的に水害の危険性は少ないが、台風時に避難所（交流センター）に避難してくる人は年々増えていることや、自治区によって訓練の実施状況が異なったり、避難場所について知らない人もいるという現状があります。

そのような中、子どもから高齢者まで広く防災意識を広げるためには、楽しく訓練できる学習の機会を作ることで、訓練を通して地域のつながりづくりになり、「みんなで助け合う」意識が広がることにもつながります。

他にも出ましたこんな課題 !!

お困りごと解決隊をつくる

子ども会や老人会などの地域の団体を維持していく

環境美化の意識を広げ、きれいな町づくり

隣近所を知る機会を作る

交流センターだよりを活用し、地域の活動について情報を共有



【三保】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
子どもと親、地域との接点を作る					
子どもが主体となる「子どもと食堂」で交流の場をつくる					
隣近所を知る機会を作る					
各区長、民生委員が集まり地域情報の共有や問題点を話し合う					
三保の杜、水車、学校との交流事業の継続					
障がい者との共同作業を通じて交流し、相互理解を進める					
交流センターを中心に、自治会と協力して地域全体での訓練を行う					
気軽に参加し、交流もでき、学べる「防災フェス」を企画する					
避難生活疑似体験の訓練（例：4～6年生でお泊り訓練）					
三世帯世帯のつながりを活かし、行事に絡めて実施					
交流を兼ねた避難訓練をする					
小地域単位の会議（班長会議）などの実施で情報共有をする					

ひとり暮らしの
人に声かけし、
孤立防止

回覧板を活用した
情報発信

いざという時のために
家族で話し合うことの
大切さを啓発

外国の人とも交流
できる場づくり



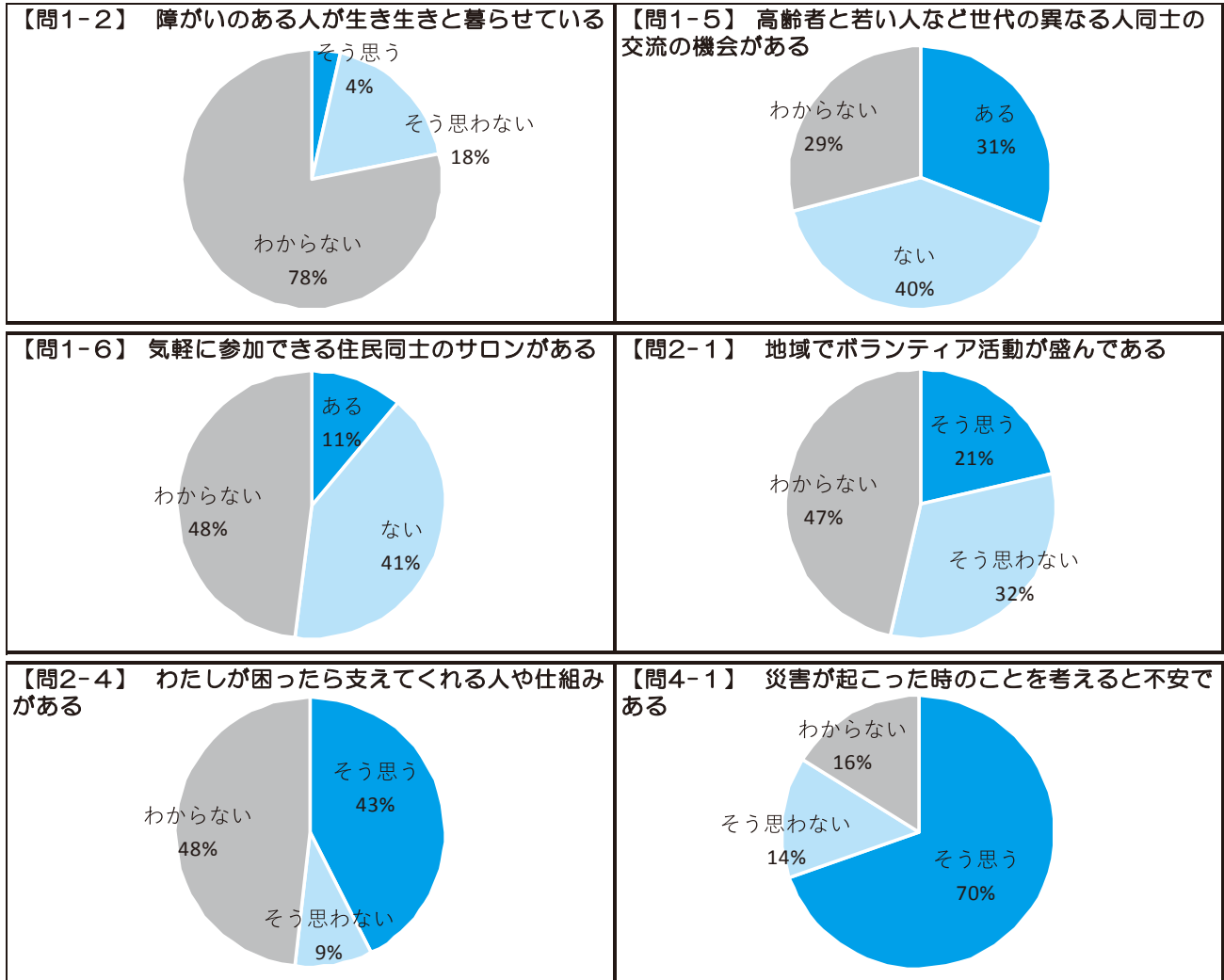
空き家対策として
地域でパトロール

第4次の実践目標はこうして決まりました

三保地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	56人（男性25人/女性31人）
回答者年代	中学生・高校生：1人、30代：4人、40代：22人、50代：3人、60～64歳：3人、65～74歳：16人、75歳以上：7人

内容抜粋 無回答分は除いています



アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・見守りのネットワークを作って情報共有すると閉じこもりがちな人等を見守れる
- ・地域で子どもが遊べる場の提供
- ・どんなボランティア活動があり、募集の状況などがわかる、いろんな情報紙があると良い
- ・若い親世代の「おやじの会」があると、情報や支援にもつながる
- ・住民同士のつながりがある所はそれを維持していく
- ・制度を知ってもらう（市民後見人など）
- ・子どもたちへのセーフティネットが必要
- ・中津エリアメールの活用（メールが見れない方への対策が必要）
- ・ゴミ出しの周知方法を検討する

作業部会で出された、三保の地域福祉活動の良いところ

- ・地域活動に参加したり、グラウンドゴルフなど毎日元気に活動している高齢者をよく見かける
- ・地域で子ども同士で遊んでいる様子をよく見かける
- ・同級生の親同士の交流がある
- ・青壮年で集まり交流が盛んな地区がある
- ・地域での活動や行事等で世代間交流している
- ・環境美化などの活動はよく行われている
- ・防犯パトロールなど、防犯の活動が充実している
- ・不審者などは以前に比べると減っている
- ・一時期、見守り活動存続の危機があったが自治会の協力により継続できている
- ・近隣で住民同士のつながりがあり、一人暮らしの人を支えている
- ・困った時に支え合う地域住民同士の仕組み（組）がある
- ・区長がいない地区では、宮総代や班長など協力しながら地域を支えている

様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



三保の社会資源

(R3年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝 (住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです)

住民同士の 交流・つながりの場	いきいきサロン (2)	古森シルバーサロン (第3土曜・古森集会所) 黒川ひばり会 (第3土曜・黒川集会所)
	週一体操教室(4)	黒川健康クラブ (毎週土曜・黒川集会所) 田中にこにこクラブ (毎週月曜・田中集会所) 草場クラブ (毎週火曜・草場公民館) 北原サンサン健康クラブ (毎週水曜・北原地区生活改善センター・北原人形後継者育成センター)
三保で活動する地域ボランティア		北原人形芝居保存会 三保の文化財を守る会
防災活動		消防団 中津市防災士協議会三保部会
防犯活動		防犯パトロール

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター (高齢者相談支援センター) 三光園
生活全般に関する相談窓口	NPO 法人福祉の里なかつ応援隊 毎週水曜 10:00 ~ 11:30 かむろフードセンター内
民生児童委員による心配ごと相談窓口	偶数月第1月曜 10:00 ~ 12:00 三保交流センター

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口 (P.153 参照) にお問い合わせ下さい